



亀山幸司 (KAMEYAMA, Koji)

主任研究員

博士 (農学)

- 1976 北海道生まれ
- 2003 東京農工大学大学院連合農学研究科修了
- 2004 農業工学研究所採用
- 2005 農業工学研究所 畑整備研究室
- 2006 農研機構農村工学研究所 農地工学研究室
- 2010 農地基盤工学研究領域 畑地工学担当



研究者の横顔

<生い立ち>

北海道帯広市で生まれ育ちました。冬はマイナス 20℃まで冷え込む気候の中でそれが普通と思って過ごしていました。今となっては、寒さにあまり強くありませんが。当時、周りには水田がなかったため、農業について思い浮かぶのは畑だけで、大学に来てから関東の水田地帯を見て、ちょっとしたカルチャーショックを受けました。就職してからは畑地整備の研究室に配属となり、現在に至っています。

<現在の研究テーマ>

高品質・多品目の作物生産の拡大に貢献するため、畑地基盤の土壌水分を適切に管理するための技術開発を行っています。具体的には、バイオマス由来の炭の多孔質性や吸着性に着目して、土壌保水力などを向上させるための土壌改良技術についての研究を行っています。また、安全な畑作物を生産するための整備技術という観点から、「ハクサンハタザオ」という野生植物を用いたカドミウム含有土壌の浄化技術についての研究も行っています。

<オフタイム>

基本的に無趣味で、私の休日は、本を読んでいるか、テレビをみているかで語れるほど単純なものです。それではいけないと、時間があるときには旅行に行くことにしています。今年の夏は、台湾の烏山頭水庫というところに行ってきました。農業土木に関わっている方にはご存じの方も多いと思いますが、ここは石川県出身の八田與一という日本人技師が建設を監督し、1930年に完成したかんがい用ダムです。洪水、干ばつ、塩害という三重苦に喘ぐ不毛の大地をダムと 16,000km のかんがい用水路によって台湾最大の穀倉地帯に変えたという話に惹かれて訪れました。研究室に籠もっていると忘れがちになりますが、かんがいと排水によって農地の水分環境を劇的に改変し、人々の暮らしまでも変えることができるという農業土木の本質を改めて感じる旅でした。非常に風光明媚なところです。興味を持たれた方は一度行かれてみてはいかがでしょうか (最後に観光案内みたいになってしまいます)。



炭を作る装置



ハクサンハタザオ



烏山頭水庫



烏山頭水庫